



## 校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥  
平成30年11月29日  
☎55-2260 第8号

### 教育目標

ふるさとに誇りをもち  
夢と希望に満ちた  
心豊かでたくましい児童の育成



## 心の安定



秋風が快いと感じていましたがあっという間に、木枯らしが吹き下ろす季節となりました。先日は、月立駅伝競技大会が行われ、月立地区以外にも多くの参加があり、晴天の中盛大に開催されました。月立小の子どもたちも張り切って走っていました。

さて、先日、雑誌を読んでいると「生徒指導上の諸問題の現状について」文部科学省が調査をしているものがありました。それを読むと問題行動は、低年齢化しており、いじめや生徒間暴力が問題行動の特徴の一つになっています。

月立小では、いわゆる「キレ易い児童」「イライラして暴力をふるう児童」はいませんが、勝手に自分の都合にあわせてルールを作ったり、約束を破ったり、いじわるなことを言ったりする子を見かける時があります。そのような時の対応として、強く押さえ込もうとしても、その場だけで、同じ状況を繰り返し、効果があまりありません。

このような状況(キレ易い児童、イライラしている児童)に対して、脳科学、心理学等の専門家による研究が盛んに行われており、その研究から科学的に少しずつ判明したものを3つご紹介します。

- (1) 喜怒哀楽の源となる人間の「情動」について、生まれてから5歳くらいまでに原型が形成される。
  - (2) 子どもが安定した自己を形成するには他者、特に保護者の役割が重要とされている。
  - (3) 子ども心の成長には、基本的な生活リズムや食育が重要。さらに、乳幼児期から良好な親子関係などを築き、愛着体験を豊かにすることで、対人関係能力や言語能力が伸長する。
- のだそうです。

それでは小学校の児童期ではもう遅いのかということですが、それは違います。脳の前頭葉は15歳くらいまでは急激に発達すると言われておりますし、道徳的心情も児童期は、他律から自律に向かう時期で精神的にも大きく成長する時期だからです。家庭でも学校でも、子どもが求めている「ぬくもり」「安らぎ」「信頼感」を忘れては、失うものはあまりにも大きいと思います。だからこそ、子どもの**心の安定**を最優先し、良好な親子関係や愛着体験を豊かにすることで、キレ易い児童、イライラしている児童を無くしていきたいと考えています。学校と家庭、地域が連携し、よりよい月立の子どもを育てる良好な関係を築き上げていく必要があると思います。



【月立駅伝競技大会ゴール地点】